

なんYA! かんYA!



2025年は第104回全国高校サッカー選手権大会で水口高等学校が29年ぶり16回目の出場を果たし見事ベスト16に輝きました。また、今年はアメリカ、カナダ、メキシコの3カ国共同でワールドカップが開催されたこともあり、サッカーが注目される年です。日本代表はどこまで勝ち上がったのでしょうか。ちなみに日本が初出場を果たしたのは1998年の第16回フランス大会からです。ここでワールドカップの歴代王者を紹介したいと思います。

優勝国	優勝回数(優勝年)
ブラジル 	5回(1958,1962,1970,1994,2002)
ドイツ(西ドイツ時代含む) 	4回(1954,1974,1990,2014)
イタリア 	4回(1934,1938,1982,2006)
アルゼンチン 	3回(1978,1986,2022)
フランス 	2回(1998,2018)
ウルグアイ 	2回(1930,1950)
スペイン 	1回(2010)
イングランド 	1回(1966)

トショブラ♥〜としょかん いこうば 甲賀市図書館友の会〜
 「本のことについておしゃべりしたい!」「読書に関するイベントに参加したい!」「図書館のことをもっと知りたい」「イベントを企画してみたい!」そんなあなたにぴったりの集まりがありますよ。図書館では月に2回、図書館友の会によるイベント「としょかん いこうば」を開催しています。申し込みは不要、誰でも参加できます。図書館友の会では会員を募集中。あなたのアイデアで図書館をもっと魅力的にしてください。詳しくは図書館まで。
 ※イベント参加は無料ですが、友の会の入会には会費が必要です。

発行：甲賀市図書館

水口図書館 : 63-7400 土山図書館 : 66-1056

甲賀図書館情報館 : 88-7246 甲南図書交流館 : 86-1504

信楽図書館 : 82-0320

ホームページ : <https://lib.city.koka.lg.jp/>

Book guide for Young Adult

甲賀市図書館ヤングアダルト通信



vol.23

2026. Summer-Autumn

Koka City Library

ヤングアダルト (Young Adult) とは、中学生・高校生を中心とした大人と子どもの境目の世代「若い大人」「大人になりつつある人」という意味です。

甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ!』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

★透き通った世界に引き込まれる物語
 『世界でいちばん透きとおった物語』

杉井光／著 新潮社

おすすめ
 この1冊

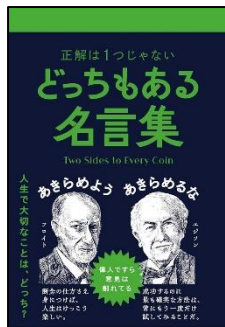


人気推理小説家で、妻帯者ながらも多くの女性と交際していた宮内彰吾は『世界でいちばん透きとおった物語』という小説のタイトルだけを遺して旅立った。その女性の一人で、彼と校正者の母との間に生まれた主人公。10歳で大きな手術を受け後遺症が残るものの、18歳で母を亡くすまで、良い距離感をもつ二人家族として暮らしてきた。母の死から二年後、父の訃報を知り、彼の遺稿を探すはめになった主人公が、辿り着いた先にあったものとは。

遺稿を通して知った父の思いに触れたとき読者もまた目を見張るような感覚へと、陥ることでしょう。そして、著者がもつ巧みな表現力によって、物語が自然と体に染み入るような感覚も同時に味わってください。

●「人に何か言われてもピンとこないわ～」と思っているきみにこそ
『どっちもある名言集』

ペズル／著 ライツ社

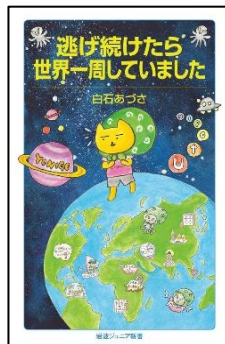


ある名言の隣に真反対のことを言っている名言が並んでいて、「実際どっちやねん！」とツッコミを入れながら楽しめる本です。

この相反する言葉は、どちらが正しいとかではなくてその人がいろんな経験をしてたどり着いた、ひとつの答えなんだということ。この本の中の言葉が胸につきささったのなら、それがきみにとっての名言です。もしかしたら、きみが口に出した言葉だって、いつか誰かの名言になるかもしれない……ですよ！

●「逃げる」ことは悪いことじゃない
『逃げ続けたら世界一周していました』

白石あづさ／著 岩波書店



人は誰しも生きていけば、「この現状から逃げ出したいな」と思うことがあるものです。この本は、著者が仕事や人間関係、日常のストレスから「逃げる」という選択をして、結果いつの間にか世界一周をしてしまったというおもしろ旅行記です。イランで密造酒をすすめられたり、ナミビアで刑務所に入ることになってしまったり、様々な体験をしながら人の優しさに触れ、著者自身大きく成長していきます。読後にはきっと心が軽くなり、「もう少し頑張ってみようかな」という気持ちがわいてくると思います。

●知らない言葉を通して、まだ見ぬ世界を知る
『なくなりそうな世界のことば』

吉岡乾／著 西淑／イラスト 創元社



「もう帰れない場所に帰りたい気持ち」や「のんびんだらりとしているさま」を一言で表すことばが、世界にはあります。約7,000ある世界の言語の中には、限られた地域でわずかな人々にしか使われていない消えゆくものがあります。本書は、そんな50のことばをあたたくも静けさを感じるイラストと共にすくい上げた一冊です。ページをめくれば、あなたの心にそっと寄り添い、一生大切にしたいくなるようなフレーズにきっと出逢えるはずです。

●先生視点がユニークな学園小説！
『伝説のエンドーくん』

まはら三桃／著 小学館



市立緑山中学校には、代々語り継がれている卒業生「エンドーくん」にまつわる落書きが、あちこちに残されている。「エンドーくんの愛はふめつ」「エンドーくんはお金よりつよし」など、その謎の言葉は生徒だけでなく、日々思い悩む先生たちの背中もそっと押してくれる力を持っていた。新米熱血体育教師、クールな学年主任など中学2年の担任を主人公にした連作短編集。エンドーくんの正体が明らかになるラストは、あたたかな感動がじんわり広がります。

●孤独を抱える3人が歩みだす
『アリゲーターガーは、月を見る』

山本悦子／著 理論社



お城のお堀に外来魚のアリゲーターガーがいる。ペットだったが捨てられたのだ。人々から怖がられ、駆除されようとしているガーの孤独に、自分たちを重ね夜のお堀に集まる3人。弟を交通事故で失くし自分を責め続けている朔哉。母の信仰によって学校でいじめられ不登校になった航。祖母が急死し、天涯孤独になった葉月。生きづらさを抱えた彼らの話を、ガーは静かに聞いてくれる。孤独も悲しみも消えないが、それでも生きていくのも悪くないよと月明かりが優しく導いてくれる物語。

●「普通」でも「普通じゃなく」てもいいんじゃない
『「フツーに生きる」がなんでできないのかやっとなづいたから聞いて』

綾瀬ちい／著 KADOKAWA



著者は国立大卒のASDニートを自称するYouTuber。就職内定を辞退した経験や摂食障害・醜形恐怖症など様々な理由から「普通に生きる難易度が高い」人間だと感じています。1日5時間鏡を見ていたり、何度もバイトを「飛んで」しまったり、「暗黙の了解」がわからず社会生活に生きづらさを覚えてしまう。形はないのに存在する「普通」に悩んだことはありませんか？ 軽妙な語り口で書かれた明日を生きるヒント満載のエッセイです。